

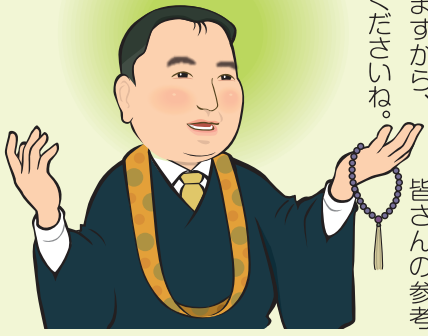
無いという思い込み、 有るといふ決めつけを破ろう

金沢教区 平野 喜之

先ほど皆さんとお勤めした正信偈に「悉能摧破有無見」といふ言葉がよく有無の見を摧破せん」といふ言葉があります。今日は、この言葉が私たちに何を呼びかけているかを一緒に考えてみたいと思います。

そのために、皆さんにクイズを出すことにします。では第一問。「いつも身近に有って私たちをたすけてくれているのに、目に見えないから無い」と思い込んでゐるもの、な〜んだ。続いて、第二問。「いかにも有るように思えるから有るような気がするけど、よく考えてみると無いもの、な〜んだ」。

どうですか、いづつ問題に間違いや正解はないので、なんでも自由に答えて下さいね。これから私なりの答えを言いますから、皆さんの参考にして下さいね。



まず第一問についてです。ある小学校の先生が、生徒にこんな質問をされたそうです。「先生、のどちんこは何のためにあるの?」。その先生はすぐには答えられなかったそうです。皆さんはどう思いますか。のどちんこは、「のどびこ」とか「つわじた」とも呼ばれていますが、「口蓋垂」が正式な名前です。慌てて水を飲んだりご飯を食べたりすると、水が鼻に入ったりが飯粒が気管支のほうへ入って咳き込むことがありますね。のどちんこは、そうならないようにふたをしてくれる役割を果たしているのです。目には見えないけれど、大事な役割を果たしてくれているのですね。

自分の身体ではないものでは、何か思いつきますか? 空気がそうじゃありませんか。「空気が」という言葉を考えた人が誰かは知りませんが、私はその人はたいしたものだと思いますね。だって、目に見えないはたらきに気づいて、しかもそのはたらきに名前を付けたのですから。名づけたことよって、他の人も気づくようになったのですからね。空気以

子どもたちと聞く法話

外はどうですか。光もそつではありませんか。皆さんがものを見ることのできるの、じつは光のはたらきがあるからです。えっ? 眼があれば見えるって? では、真つ暗な押入れの中に入って本を読もうとして下さい。光のありがたさがわかります。それに、光があるから眼があるのですよ。光のない世界には、眼は必要ありません。その証拠に、光の届かない世界に住んでいる深海魚の中には眼がないものもありますからね。第一問の答えはまだまだあるでしょう。おうちに帰ったら、ご家族の方と考えてみて下さいね。

では次に、第二問について考えてみましょう。私たちは、どれだけ人の役に立っているか、どれだけ地位が高いかで、いのちをランクづけしていないでしょうか? そもそもいのちにランクなんて無いのに、「有る」と決めつけていないでしょうか? ぶだんはなかなか、自分たちがいのちにランクづけをして差別していることに気づかないかもしれませんが、戦争のときには、はっきりとそういう考え方が表に出てきます。戦争になると、作戦を立てる人たちが作戦を実行せよと命令をする人たちのいのちは大事にされても、作戦を実行する兵隊さんたちのいのちが軽く考えられてしまいがちです。また作戦

の役に立つかどうかで、兵隊さんが差別されるもします。このこともまた、おうちの方とを考えてみて下さいね。

私たちは、本当は有るのにもかかわらず気づかないで無いと思ひ込んでいたり、よく考えてみれば無いのに有ると決めつけていたりします。この「悉能摧破有無見」といふ言葉は、仏さまの教えを聞くことよって、そういう思い込みや決めつけをことごとく破ってほしいと、私たちに呼びかけているのです。

これで朝のお話を終わります。最後に阿弥陀様に向かって合掌してお念仏申しましょ。 「なむあみだぶつ、なむあみだぶつ」

蓮ちゃん通信 その②

寺院・僧侶向けリーフレット

ひとりからはじめるために
~青少年センターが提案する
日常生活や法務での“ひと工夫”~

今ある仏事の場にひと工夫を加えることで青少年が教えに出会う場とするための取り組みとして、新たなリーフレットを発行しました。表面は、ポスターとして掲示することができます。必要部数無償にて送付いたします。詳しくは、青少年センターまで。



発行!

